

薪ストーブの季節終了

榎戸材木店
会長 榎戸正人

冬の我が家のリビングルームの暖房は薪ストーブです。友人知人の中には「薪ストーブですか！優雅ですね」と言う人がいますが、とんでもない。冬場は毎日のように会社から自宅に薪を運ばなくてはなりません。木材加工で出る端材はスギが主体で小さいものが多いので、段ボールに入れて持ち帰っても、2箱が一晩で燃え尽きます。

そもそも我が家に薪ストーブを設置したのは、以前、ダイオキシン規制でドラム缶で端材を燃やすことが出来なくなり、ダイオキシン対策をした焼却炉は安いものでも400万円以上かかるため、それなら改築のついでに薪ストーブを設置して、そこで燃やそうと考えたからです。

しかし当時は木材加工は主な仕事ではなかったので当社から出る端材だけでは不足、製材工場やブレカット工場から貰ってきて燃やす羽目に。自社の端材処理のほが、端材集めに明け暮れることとなりました。冬場は薪ストーブに時間と体力を奪われる日々でした。でも、せっかく設置したからには使うのをやめるわけにはいかない。意地になって薪運びをする生活は、とても優雅とは言い難いものです。

そもそも、カナダの製材品を扱っていたころに出る端材はバンドルの下についている台棒や、注文で長さをカットしたときに出る少量の材だけで、それなら廃棄物業者に引き取ってもらった方が良かった……暖房費が節約できると思ったのが間違いでした。灯油や電気代が高くなった今年は、確かに助かっています。

一昨年からは木材を右から左に売るとは止めて、加工して付加価値をつけて売ることにしたので、細かい端材は山のように出ます。先方から樹種指定されての加工も多く、タモとか栗の加工もあるので、固い広葉樹は良い薪になります。でも細かい……写真のようにストーブの横に山積みになっていますが、すぐに燃やし尽くしてしまうので、週に3回は会社の倉庫から運ばなくてはなりません。年寄りにはシンドイ作業です。

でも、燃やした後の灰は肥料になりますし、昨今のように光熱費が高くなると家計には大きな助っ人になります。浮いたお金でお酒を買って、体の中で燃やしていたのでは何の足しにもなりません……その薪ストーブの季節も、3月の初めには終わります。ようやく、薪運びの作業から解放されます。

